『楽しみの人生』を送るために よい成功習慣(クセ)を身につけよう

――「明・元・素」について――

高井法博会計事務所
所長　高井　法博

新年明けましておめでとうございます。

私も今年で四回目の年男となる。今まで本当に沢山の方々とお逢いし、多くのご支援・ご教導を賜わった。また、景気の好不況にも遭遇した。そんな時、色々悩み苦しむが意識して自分自身に、そして社員にも話し習慣化させようとしていることがある。それは、『明・元・素』ということである。

一、明…「明るく」

私は小さい時から貧乏で、生活苦の中で苦学してきたところがある。だから、常に悲壮感を漂わせ表情も堅く暗い感じを与える。話題もつい堅く仕事の話しかできず、相手に不愉快な思いをさせてはいけないと思い、集会や酒席に出ることはとても勇気のいることであった。では、本質的にこのようなことが嫌いかというとそうではなく、そういう席で中心になって活躍している人を見るととても羨ましく、自分もそのように振る舞えたらどんなに幸せかと常に思っていた。

こんな私を半ば強制的に皆の前に引っ張り出し色々なことをやらせてくれた小学校の先生、大学時代弁論部にいたという父、高校で応援団に所属していたこと、そして就職した会社で何かと面倒をみて下さった社長や上司、開業してから何かと機会を作ってくださったお客様や多くの先輩、数多く読んだ本や講演から学び、自分を徐々に変えていくことができた。初めはなかなかできなかったが、だんだん加速がついてくる。事業で成功している経営者は総じて明るく陽気である。

事業で成功するには素晴らしい方々との出逢いは不可欠である。私はよく人脈の重要性について話すが殆どの方は理解いただける。しかし、どうも実行段階になると躊躇される方が多い。どうか今年こそ勇気を持って、プラス方向の人が集まる会合に出席し、意識して『明』を求めよう。

二、『元』…元気なこと。

楽しみの人生を送る上で、前向きな姿勢を身につけることも必要不可欠である。人の上に立とうとする者は、常に前向きな言葉や進歩発展を目指す姿勢を意識してとる必要があり、私は職員にも要請している。

当事務所の全員が守らねばならぬ経営計画書中の「環境整備に関する方針―礼儀礼節―」に次のような記述を行っている。

―《成功者は、皆声が大きい!!》『ハイ』と言う言葉、『ありがとうございます。』『すみません。』を素直にハッキリと言う。『ハイ』という返事が大きな声であればあるほど好感が持てる。仕事がはかどる。仕事に自信ができる。活気が出てくる。周囲が明るくなる。小さな声、返事のない時を想像してみるとその明暗の差がどれ程大きいかわかる。返事やあいさつのないのは程度も低く、消極性のかたまりである。―

定着させるまでは時間がかかるが、私や幹部が意識して行い、ことある毎に要請していけばそれが主流になる。まず、大きな元気な声を出すのが積極姿勢の第一歩である。

三、素…『素直』

高名な経営者やすごい人は、びっくりする程『素直』であり、良いと思ったことや正しいと思われることは躊躇せず、すぐ受入れ実行される。だから伸びるのは当然だと思う。

当事務所も新入社員研修の第1講目で、この素直さを要求する話しをする。素直であればドンドン言ってやることができ、それを素直に受け入れればその人はドンドン成長する。縁あって入社していただいた社員の成長を心から祈っている。幹部職員にも徹底している前述の経営計画書「管理者に関する方針」を紹介したい。

―部下が間違ったことをした時はその場で叱る。可哀相だから、一度位は、などと考えるのは部下に対する本当の愛情ではない。我子を叱るつもりで善導せよ。或いは、部下から見て自分は優しい物分かりのよい上司、嫌われ者になりたくないと思っているのであれば、企業の本質をわかっていない上司である。仕事に情熱を傾けて真剣に取り組んでいればいる程、またその人の成長を心から祈っていればいる程、命令したことや教えたことをやっていないと心から腹が立ち、思わずその場で叱ることになる。逆に言えば、叱ることができないのは仕事に情熱を傾けていない。相手の成長を祈っていない証拠である。私は、自分の子供が間違ったことをした時はブン殴る。

これらを入社直後の新人に話し、いざ叱られた時に素直に聞くことを要請している。

時代は変わり、次々と新しい対応を我々に要求する。『明・元・素』を常に意識し具体的に行動し、素晴らしい企業を未来を共に作って行けたらと思っている。